寄託文書紹介12

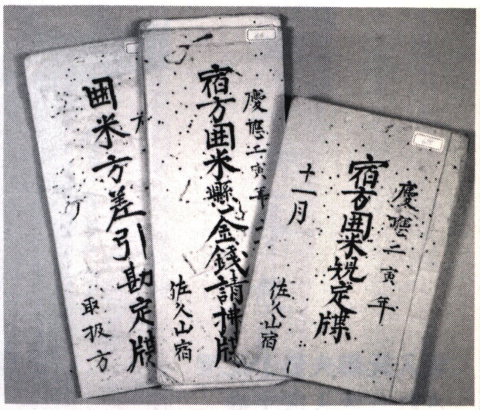
井上潤三家文書

当館には江戸時代の宿場の文書がいくつか寄託されていますが、今回紹介するのは奥州道中の佐久山宿(大田原市)の問屋・本陣をつとめた井上潤三家文書です。

佐久山宿は、大田原宿と喜連川宿の間に位置する宿場で、天保十四年(一八四三)には家数は百二十一軒、人口四百七十三人を数え、二十七軒の旅籠屋がありました(『宿村大概帳』)。旗本福原氏の領地で、福原氏の陣屋が置かれました。

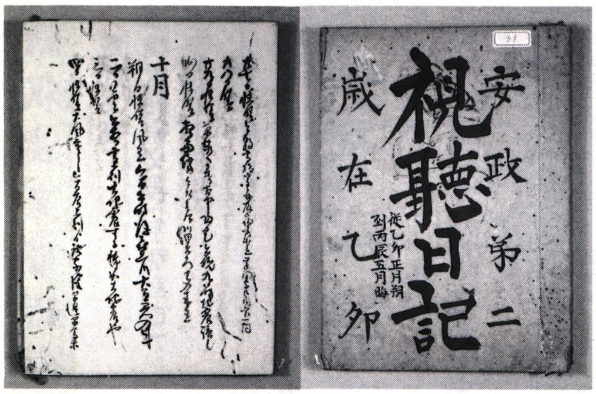
宿の問屋は、人馬や荷物の継ぎ立て業務を行う宿場の中枢であり、井上家は早い時期から問屋をつとめており、佐久山宿において重要な役割を果たしていました。佐久山宿は幾度かの火災に逢っているためか、井上家の文書も江戸後期のものが中心となっています。

問屋・本陣関係の史料としては、道中奉行からの触達、助郷村々への人馬割当状、荷物駄賃帳、大名の通行に伴う人馬継立帳などが残されています。また江戸時代の宿の家並みを描いた絵図や本陣の間取り図などもあり、宿の歴史を知る上で大変貴重な史料となっています。このうち元治二年(一八六五)の「京都御警衛会津御人数継立帳」や慶応二年(一八六六)の囲米・窮民手当米の史料からは、幕末の慌ただしい世情の一端をうかがうことができます。



囲米関係史料

井上家の当主は「視聴日記」と題する詳細な日記を付けていたようですが、残念ながら現在では二冊しか残っていません。毎日の天候と出来事が欠かさず記されており、興味深い史料です。このうち安政二年(一八五五)の日記を見ると、十月二日には「大地震する、稀成大地震也」とあり、安政大地震の記事があります。同四日には江戸からの早馬の情報として、「江戸表大地震、出火にて御府内八分通は焼亡之由」ということで、佐久山宿を通る東北諸藩の江戸屋敷の被災状況に関心を寄せています。また仙台の飛脚からの話として江戸の被災状況を細かく記しています。井上家は問屋という職務上、積極的に情報を収集しようとしていたようです。

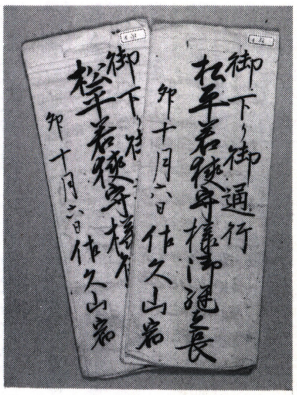


「視聴日記」の表紙と安政大地震の記事

その他問屋・本陣関係以外の史料としては、領主であった福原氏とその家臣関係の史料や、明治初期の佐久山郵便局関係の史料も残されています。

井上家文書からは、多忙な業務に携わりながら、日々変わり往く世の中の動きを見つめていた姿を思い浮かべることが出来ます。

(川田純之)


人馬継立帳

荷物賃銭覚帳